



四万十町  
町内「ぶら〜り」散策

# 中打井川

なかうついがわ

前回に続き、打井川地区。今回は中打井川である。四万十川にかかる打井川取水橋からおよそ1.5kmのところが口打井川と中打井川の境界になるのであるが、ここに「関札塔」という石積みのおきな塔が建っている。これは、江戸時代、河内神社の春祭の折に守札を納めるために建てられた塔を、近代になって復元したものである。そもそも、口打井川と中打井川は一つであった。打井川最下流（下組）と中流（上組）とでは、地形上、当然のことながら農地の条件が異なり、米の栽培効率に差がある。収穫量にも差が出てしまうのは必然である。そこに「厳格な年貢制度時代」が到来し、打井川中流域の住民に対して、農地の条件に関わらず同じ年貢ノルマが課されるという負担が、より重くのしかかる状態が続いたため、年貢米の区割りを分離したのだという。そういった歴史背景もあって、昭和23年から地区割りも上組を中打井川、下組を口打井川としたようである。

口打井川は、旧上山郷にある農地の中でも一等地であったが、上流に向かって山が深くなり、農耕条件が厳しくなっていくため、自ずと「山の仕事」の割合が多くなっていく。ここ中打井川でも、昭和30年頃までは製炭業が盛んに行われた。しかし、外国産材の輸入と石油エネルギーへの転換などによる、製炭業を含めた林業の全国的な衰退の波は、ここ中打井川も例外なく飲み込み、昭和40年代に入ると人口減少が顕著になったという。

中打井川の産土神は九郎権現である。口打井川の河内神社の合祀されていた時期もあったが、昭和20年頃に遷

宮し、さらに平成に入ってから中打井川集会所奥に移された。さて、中打井川を語るときに欠かせないのは馬之助神社のことである。江戸時代、奥打井川の貧しい農家に馬之助くんという子どもがいた。彼は、そのあまりの貧しさ故、空腹に耐えられず、近隣で「盗み食い」をすることもあった。そしてとうとう「口減らし」のため、山に捨てられてしまう。その時「山に入ればアカイコ（サワガニ）をたくさん食べられるからおいで」と言われて連れて行かれたのだという。深い深い山奥で夢中でアカイコを獲っている馬之助くんはそこに置き去りにされた。1週間後、父親が様子を見に行くと、彼はまだアカイコを獲っては食べ獲っては食べていたが、数日後には、可哀想に息絶えていた。馬之助くんはまだ7歳であった。

その後ひと月もしないうちに、親を含めた親族一同が亡くなり、村でも不思議なことが続くので、馬之助くんの供養をするために祀られたのが馬之助神社である。地区には今も、この不憫な馬之助くんを思い、旧暦の3月7日の大祭以外にも、お盆になると松明を立てるといった人もおられる。



馬之助神社には、今もたくさんのアカイコがいる

町のうごき	(5月31日)		前月比	出生 死亡 転入 転出				四万十川の水質状況	適正值(mg/l)		6月10日							
	男	女		男	女	計	リン酸		硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤	化学的酸素要求量						
	7,760	8,514	-11	4	3	10	6	11	≤ 1.0	≤ 0.5	≤ 5.0	≤ 1.0	≤ 10.0	測定範囲以下	0.285	測定範囲以下	測定範囲以下	0.10
	計	16,274	-26	7	31	21	23	23										
	世帯数	8,300	-6	(5月中の届出)														
	窪川地域	11,548人		大正地域	2,250人		十和地域	2,476人										